



遣伯使見聞録



Eu sou Japonesa (私は日本人です)

お会いするブラジル人の児童生徒、教育関係者はみんな日本に興味をもって「日本に行きたい」と言います。興味があるのは、文化、食事、観光、伝統、技術、芸術そして安全性だそうです。いろいろ質問されますが、それに対して自分は十分な回答ができていないかなど不安になることもあります。「日本のことをもっと知らないといけないな」と感じました。なぜなら、自分の発言が日本の代表になるからです。

PS 日本文化の「わびさび」なんて、かなりマニアックな回答を通訳さんは一生懸命訳してくれていました。…感謝です。

【ブラジルの教育事情】 その2・・・意見交流の中の抜粋

○校長先生について

- ・校長先生は、誰でも立候補できて、教員、保護者、18歳以上の生徒の投票により選挙で決まる。
- ・校長先生一人一人がはっきりとした学校経営方針をもち、生徒、教員、保護者に対し思いや考えを伝えたり、積極的に教育資金を集めるための工夫をしたりしている。
- ・全国学力テストで上位を！学習相談や補習をして、学習指導に力を入れたい。テスト以外で子どもの学力をはかるのは難しい。やる気がなくてもテストができれば賢いとする。
↳ 子どもの学習意欲には地域や家庭環境により大きな差がある。
- ・人間性や子どもの個性を大事にしたい。集団生活の中で大事なものは「思いやり」。

人種のるつぼ
文化のるつぼ



職員室は休憩するところ。
立っているのが校長先生



○教員について

- ・小学校は担任があるが、中学生以上は基本的に担任はなく、教科担任が責任をもって一人一人を指導する。一人の教員は一週間20時間の授業をもつ。それでは給料として足りないのもう一校勤務し40時間受け持つ教員もいる。
- ・休み時間は休み時間として、職員室に集まりおやつを食べ、お茶を飲み、談笑している。
- ・教職員の健康診断は行われぬ＝自己検査・自己管理。
- ・生徒からの暴言や暴力、いじめを受けたり、保護者から訴えられたりして、精神的に病んでいる先生もいる。

○不登校・いじめについて

- ・貧富の差が大きく経済的、家庭的な理由で学校に行けない子はいる。
- ・けんかや暴力はあるが、陰湿ないじめはない。…どれくらい学校や教育局が把握しているのか？

○保護者の苦情

- ・日常的な問題については直接学校に苦情が入る。カリキュラム、設備、校長、教員、不審者などの苦情は州教育局の窓口、電話、メールなどに入り、州教育局は担当部局に振り分け、48時間以内に苦情に対応する。

○教員の不祥事

- ・信用失墜行為は基本的にない。体罰・パワハラ・セクハラはない。個人情報完全にデジタル化され、漏えいすることはない。飲酒運転などの交通違反は、個人の問題で教職には影響されない。…日本の実情を暴露してしまい、逆に変な質問をしてしまった感じだったが、実際のところはわからない。

雨男パワー炸裂、そして桜咲く ～ナッツコラム～

「夏目さんが来てから、ずっと雨か曇りですね…」通訳さんや教育局の方に言われ、ナッツは苦笑していたね。確かにブラジルに来て一週間、太陽を見ていなかった。日本は秋分の日だけど、ブラジルは春分の日。暦の上では春！でも春分の日を超えたところから、晴れて温かくなり、ブラジルの桜と呼ばれるipe (イッペ) の黄色い花が咲いた。よかったね、ナッツ！

